

今月の一枚



OB会主催バス旅行（2月24日、高田本山・専修寺にて）

◆◆ 総代OB会 ◆◆

順慶寺では、平成18年に護寺会を発足して以来、総代任期を原則三年一期とし、その後は総代OB会に入会して頂いている。任期を終えた総代は、総代OBとしてその経験を生かし、バス旅行、ハスの世話、タケノコ掘りの竹林整備などに尽力し、大いに活躍をしている。

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺  
2026年(令和8年)

3月号

VOL.389

◆その場を明るくする人◆

三月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』より、

「村の中に 森の中に  
はた海に はた陸に  
阿羅漢 住とどまらん  
なべてみな楽土なり」

(第九八偈、友松圓諦訳)

からの引用です。

実は、今回の言葉は、本誌面では令和2年5月号に掲載済みの言葉ですが、あえて今月、再掲することにしました。

そのわけは、先日婦人公論の記事に、九十三歳になる、①青山俊董老師のインタビューが掲載されたためです。青山俊董氏は、順慶寺が平成三十年に御遠忌法要を厳修させていただいた際に、記念講演にご出講していただいた、愛知専門尼僧堂の堂主で、曹洞宗の傑僧です。

青山俊董氏の師匠は、「何にもならんもののためにただ坐る」という只管打坐を貫き、一生を通じて座禅を実践した、②澤木興道氏で、有名な鎌田茂雄氏、村上光昭氏などを育てました。



今月の釈尊の言葉

村の中に森の中に  
はた海にはた陸に  
心あるもの住みとどまらん  
なべてみな楽土なり



『ダンマパダ』  
98偈より

若院のテーマカット NO.80



その澤木興道氏に導かれた方々が、好んで今月再掲した『ダンマパダ』（友松圓諦訳）の「心あるもの住みとどまらんになべてみな楽土なり」という言葉を引用されているためです。

しかも、婦人公論のインタビューで、青山俊董氏は、「ころあるもの」として親鸞聖人を思い出すとされました。おそらく、厳しい座禅を通して、自力修道の道歩む青山先生からすれば、他力念仏という、異端の教えに生きた人である親鸞聖人ですから、違和感があるに違いありません。その親鸞聖人に対して、「その場を明るく温かく、居合わせた人々の心を安らか

にする力がありだった」と絶讃しておられます。

◆置かれたところで咲きなさい◆

以下、青山氏が心を打たれたという、親鸞聖人の逸話です。

越後に御流罪になる際、罪人として越後に赴かれる道中で、手取川(石川県)が氾濫したので、仕方なく一夜の宿として天台宗のお寺に泊めてもらうことがありました。お寺の僧侶からすれば迷惑千万の話で、流刑の僧侶の世話などしたいはずはありません。

ところが、仕方なく一晩お世話をしているうちに、親鸞聖人のお念仏の教えに心を打たれ、またたく間に親鸞聖人に帰依してしまいます。

翌朝早くに、荒れ狂う手取川が少し風いだのを見て、親鸞聖人は流刑の越後へと連行されていくのですが、堂主は

①【青山俊董】

昭和8年、愛知県宮市に生まれ。5歳の頃、長野県塩尻市の曹洞宗無量寺に入門。十五歳で得度し、愛知専門尼僧堂に入り修行。その後、駒澤大学仏教学部、同大学院、曹洞宗教化研修所を経て、39年より愛知専門尼僧堂に勤務。51年、堂長。59年より特別尼僧堂堂長および正法寺住職を兼ねる。現在、無量寺東堂も兼務。平成16年、女性では二人目の仏教伝道功労賞を受賞。

②【澤木興道】

明治13年三重県津市に生まれ。七歳で両親・叔父の逝去後、同市の提灯屋・澤木文吉の養子となるも家出して、徒歩で永平寺へ。明治30年、沢田興法の下で出家得度。明治33年、歩兵第三十三連隊に入営。日露戦争で瀕死の重傷を負い、除隊。明治41年法隆寺勸学院に入り、佐伯定胤に唯識を学ぶ。大正元年、松坂の養泉寺僧堂の単頭となる。大正5年熊本の大慈寺僧堂講師に就任。昭和40年逝去。

どうしても親鸞聖人のお言葉をお寺に残しておきたくなり、慌てて寺に戻り筆と紙を持ってきました。しかし、再び手取川は荒れ狂い、すでに時遅しでした。そのとき、親鸞聖人が対岸からご自身の筆をもって、何か書き始められるので、慌てて堂主が紙を持ち上げると、何と「南無阿弥陀仏」の名号が写し出されてきたというのです。堂主は感激するとともに、お名号をご本尊として生きる決意をしました。

これは、有名な「川越の名号」の話で、青山氏は親鸞聖人の赴かれるところに楽土があると感心したわけですから、かの渡辺和子シスターが、「置かれたところで咲きなさい」という名言を残されましたが、まさに親鸞聖人のお心を知るにつけ、人を選ばず、所を選ばず、大切な教えに生きることの素晴らしさを教えられるます。



お彼岸になると、お墓参りに出かけると、お仏壇でも特別なお参りがあるの？

お彼岸のことですね。それではお彼岸について、少しだけお話をしましょう。

彼岸とは、私たちが煩惱に迷って生きている世界(此岸)に対して、迷いを離れた世界のことを言います。この世界の間にあるのが、かの有名な三塗の川です。少し難しいですが、三塗とは、猛火に焼かれる苦しみ(地獄)、飢えに責められる苦しみ(餓鬼)、互いに食い合い、殺し合う苦しみ(畜生)の世界のことです。彼岸に亘るには、この三塗の世界を越えていかなければなりません。

お経(『仏説観無量寿経』)には、西方世界に沈む太陽を觀て、海の中を感じ、海の底を感じ、底にある木々を感じ、水を感じていくうちに、阿弥陀様のまします世界を感じていくのだと書いてあります。ですから、三塗の世界をなかなか越えることができず、迷いの世界にいる私たちが、迷いを離れた世界を觀ずるために、太陽に思いを馳せていくことを教えるわけです。

太陽が、真西に沈む日は、春と秋に一回ずつありますが、その日が、太陽が阿弥陀様の世界に沈んで行く日なので、お彼岸の中の日と言うわけです。彼岸の世界には、ご先祖様がおいていられるので、お彼岸には、お仏壇とお墓にお参りします。

《第七一回 聞法》

先日、とある先生とお話する機会がありました。なつてからも、たくさん聞法をする心構えてなければなりません。生涯聞法です。

その折、私が「若院である今のうちに、たくさん聞法をしなくてはいけませんね」と申し上げたところ、

「何を言ってるんだ。住職に自らの姿勢を、あらためて問われました。」

お寺とともに

「ロロロ」

世界が悪くなる



NHKの朝の連続ドラマ『ばけけ』の主題歌で、

「♪日に日に世界が悪くなる」というフレーズに、「ハッ!」と思われる方も意外に多いのではないのでしょうか。

ウクライナ侵攻から早4年が過ぎました。今の時代には信じがたい、力による現状変更。こんな不条理な戦争は、当初すぐに終わると思われていましたが、四年たってもまだ、世界中の誰も止める事が出来ていません。それどころか、もっともつと事態は複雑で泥沼化し、大国と言われる国が、武力を傘に自分勝手なことを言っている現実があります。

「♪気のせいかな、そうじゃない」ともすれば暗く混沌とした世の中ですが、この歌の歌詞の最後にあるように、

「♪落ち込まないで諦めないで君の隣歩くから」

家族や仲間と歩む先に、必ずや希望の灯火があることを願っています。



総代OB会主催バス旅行

高田本山 専修寺 国宝のお堂と名勝庭園を拝観

さる、2月24日、順慶寺総代OB会主催の一日バス旅行が実施されました。目的地は、三重方面で、高田本山・専修寺・鈴鹿の森公園、いなべ市農業公園などを訪問しました。

朝から2月とは思えないほど温かい好天に恵まれた当日、総代OBの皆さんをはじめ、多くの順慶寺関係者他の方、41名の参加をいただき、フジキョー整備(株)バスのバス一台で出発しました。この日は、予てから予定されていた、伊勢湾岸道路のリフレッシュ工事期間中。当初、渋滞しても三十分ほどの遅れで済むだろうと予測していましたが、実際、湾岸豊明インター手前の表示板では、一五〇分の遅れと出ていました。

ドライバーの機転で、経路を替えて、下道を走りましたが、それでも当初の予定より九〇分の遅れとなり、大幅な予定変更を余儀なくされました。最初は、高田本山・専修寺。大幅に遅参しても、御影堂、如来堂、庭園の拝観をさせていただき、係の方からも諸堂の説明をしていただきました。

御影堂は、親鸞聖人の御真影をお敬いするお堂で、七八〇畳ある、日本で五番目に大きな木像建築。寛文六年(二六六六)の建築で、現在は国宝に指定されているお堂でした。続く如来堂へは、通天橋を渡って行きます。通天橋も国宝に指定されるほどの素敵な渡り廊下ですが、エレベーター

が設置されたため、見送られたそうです。如来堂は、阿弥陀如来の救いが本物であるという「証拠の如来」と呼ばれる阿弥陀如来の木像が安置されています。この如来堂も近年に国宝に指定されています。

最後に、通常非公開の庭園・安楽庵を拝観しました。石組みを造らず、自然の美を生かした格調の高い名園として知られ、侘びと寂びの感ぜられる素晴らしい名園でした。その後、名阪関ドライブインで昼食を済ませ、一路、しだれ梅の名園・鈴鹿の森公園へ。しだれ梅まつりが開催される期間は、入場料が二〇〇円となりますが、八重咲きの一種である呉服枝垂(くれはしだれ)を中心に、およそ二百本のしだれ梅の古木が園内一杯に咲き誇ります。当日は、まだ三分咲きくらいで、満開にはほど遠い状態でしたが、それでも呉服枝垂の美しさに圧倒されました。



▲通天橋から如来堂(専修寺) ▼鈴鹿の森公園にて



旅行の締めくくりは、いなべ市農業公園の梅林。最盛期には、駐車場が満車となり、二キロほど離れた駐車場から歩かなくてはならないようですが、当日は、閉園間際の間で、満開前ということもあって、ほとんど人のいない状態。夕暮れで少し寒くなっていましたが、高台に登って見渡せる梅園は素晴らしいもの。今回の旅行に締めくりに相応しい景色を楽しみ、帰路につきました。

2月度護国寺会物故者

釋俊道

2月14日寂 岡本俊之(89)  
今川西組 岡本哲也様の父

釋穩達

2月14日寂 岡本達(91)  
豊田市 岡本健治様の父

おしらせ 刈谷市仏教会主催 花まつりについで

来たる4月5日(日)、昨年につき、JR刈谷駅前にある、みなる広場およびアイリスホールにて、刈谷市仏教会主催「はなまつり」を実施します。みなる広場では、お囃子や剣舞演奏やジャグリングなどの催し、手

作り小物、野菜、フラワーアレンジメントやキッチンカーなどのマルシェが開催され、アイリスホールでは、灌仏納棺体験、写経、御朱印などが実施されます。マルシェで使える金券もお寺で扱っています。詳細は、順慶寺までお尋ねください。

編集部短信

◆竹藪整備実施 〓 さる1月27日、責役の相木国男氏所有の竹林の整備を実施。10名ほどの総代OB他が集まり、伐採してあった竹を処分した。

◆定例責役総代会実施 〓 さる2月13日、下半期の責役総代会を順慶寺玄閣にて開催。令和7年度の護国寺会計報告、令和8年度の要求事項が確認された。本会議では、令和8年度から本堂を使用する際の使用料を護国寺会協力金(五千円)として集めることが提案された。

【4月号より寺報の編集者交代】4月号より寺報の編集を一手にしていた住職は一面の執筆に専念し、寺報全体の編集を若院へと交代します。次号からの若院の編集にぞっく期待。

編集雑記

平成5年9月から毎月欠かさず発行してきた寺報の編集を若院に譲ることになりました。寺報を毎月発行し続けることは本当に大変なことでしたが、おかげで、大法要への取り組み、順慶寺の環境整備、月例会の行事などを皆様に具さに報告ができ、順慶寺の現状を文章化し整理できました。この三十余年に、多くの発展ができたのは、寺報を応援してくださる皆様のおかげだったと感謝入ります。(住)

境内の梅が咲き始めました。この次期まだ寒さが残るものですが、今年は二十度にもなり、日光に当たると暑ささえ覚えます。この先の春や夏はいっそう暑くなるのでしょうか。(若)



# 3月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	日	寺カフェ(9:00~、順慶寺本堂南落間他)	
2	月		
3	火		
4	水		
5	木		木-1
6	金		
7	土		
8	日	護寺役員年番会(15:00、順慶寺本堂)	
9	月		
10	火		
11	水		
12	木	岡崎教区21組・門徒会研修(13:30、泉田町・西念寺)	木-2
13	金		
14	土		
15	日		

16	月		
17	火		
18	水		
19	木		木-3
20	金	春分の日	
21	土		
22	日		
23	月		
24	火		
25	水		
26	木		木-4
27	金		
28	土	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺本堂)	
29	日		
30	月		
31	火	護寺会会計監査(10:00、順慶寺庫裏)	

## 3月行事内容 詳細

### 護寺役員・年番会

3月8日(日)

午後3時~ 順慶寺本堂

令和8年度の護寺会活動が4月から始まるのを受けて、護寺役員と令和8年度年番の皆さんが集まっていた。令和7年度の会計報告、行事報告、令和8年度の行事計画などの説明を、護寺会執行部および事務局から説明させていただきました。事前に案内のあった方は、万障繰り合わせてご出席ください。

### 二十一組門徒会研修

3月12日(木)

午後1時30分~ 西念寺(泉田町)

講師 竹原了珠氏(能登教区教務所長)

岡崎教区二十一組の門徒会研修の第二回目。今回は、『被災地能登からのメッセージ~立ち上がる念仏』(東本願寺出版)の著者で、能登教区の教務所長として、令和六年能登半島地震の震災復興の最前線で指揮をとってられる、竹原了珠氏を講師に迎え、能登における震災復興の現状や課題などについてお話いただきます。

## おしらせ

### ●護寺役員年番会について

3月8日、護寺役員年番会の当日、欠席される方は、必ず事前に順慶寺までご連絡ください。なお、令和8年度の行事内容を正確に伝えられるように、一地区一人以上は必ずご参加ください。

### ●刈谷市仏教会花まつり金券について

前頁に掲載しておりますように、4月5日刈谷市仏教会主催「花まつり」を実施します。

当日、お店で使用できる金券があります。ご希望の方は、順慶寺までお尋ねください

### ●誕生児初参り式について

今年も順慶寺で行う花祭り当日(4月12日)、誕生児初参り式を実施します。令和7年1月から12月までの間にお子さんが誕生された方は、是非、順慶寺で行われる初参り式にご参加ください。三月末日まで。お問合せは順慶寺まで。

### じゅんこのときめき歳時記

## はまぐり

立春過ぎてから、暖かい日が増えてきて、すっかり春めいてきました。スギ花粉も飛び交うころですが、皆さんお変わりありませんか。

三月になると、お店にはつづの大きなハマグリが並んでいるのを見かけます。ハマグリは、春から初夏にかけて産卵時期に入るため、身にグリコーゲンやアミノ酸などの栄養を蓄えるため、昔から三月頃に食われて、桃の節句にもよく出されてきたのだそうです。

昔から、ハマグリは庶民の食卓にあがっているため、色んな例えにされます。例えば、江戸時代の宝永の大火災のとき、固く閉じられていた京都御所

の門が開いたので、「蛤御門」と名づけられたそうです。

ただ、このごろは、「桑名の焼きハマグリ」で有名な国産ハマグリは珍品で、高級品になるそうです。

### ばと開きて蛤

なにが言ひさうな

中村亀代

